かごしま道の首長軸会議

低コストでも道路完結を

かごしま道の首長軸会議（代表世話人・赤崎義則鹿児島市長）は4日、川内市のホテル太陽パレスで第4回会議を開き、県下50首長と国土交通省や県土木部ほか関係者計約100人が参加し、「地域の実情に即した効率的な道路整備のあり方について、知恵を出し合い議論しよう」を議題に、各地域の実情を報告しながら社会基盤整備の重要性を真剣に議論した。

会議では冒頭、森卓朗川内市長が「南九州西回り自動車道が市来ICまで開通、川内～鹿児島間が約50分で結ばれるようになったとはいえ、隈之城ICまでの開通は10年代後半の予定である。道路は完結してこそ役割を果たすものであり、人の交流と物流、災害時の避難・復旧整備にと社会基盤となる道路整備について知恵を出し合い議論して下さい」と開催地市長挨拶。引き続き、赤崎代表世話人が「平成12年に全国に先駆けて設立して4回目の会議です。道路整備は、国家百年の大計によって整備されるべきで好・不況に左右されるべきものではない。と思うので意義ある議論を頂きたい」と挨拶した。

道路整備について協議した会議
＝川内市のホテル太陽パレスで

岡本博九地整道路部長が、〝5年でみえる道づくり、ちゃくちゃくプロジェクト〟と題し、「西回り高速道は16年度中に串木野IC、18年度中に隈之城ICまで開通、隈之城バイパスは15年度中に4車線化開通させます。目標達成のため出席首長の協力・支援をお願いしたい」と講演。

福森静県土木部道路建設課長が事例発表の後、森市長を座長に、各地域の首長が実情を報告しながら『立派な道路は要らない。低コストの道路でも完結してほしい』など活発な議論と提案がなされ、提言書にまとめて関係機関に要望する事が採択され、次回開催地を出水市と決めて閉会した。

経験教訓に防災再認識

鹿児島豪雨災害から10年目の集い

平成5年鹿児島豪雨災害から10年行事実行委員会主催の「平成5年鹿児島豪雨災害から10年目の集い」が5日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで開かれ、一般市民ら約500人が参加して、当時の状況をスライド上映などで振り返りながら、今後の防災対策などについて学び、認識を新たにした。

今後の防災対策などについて認識を新たにした集い＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

当日は初めに、平成5年に鹿児島で発生した豪雨災害をスライド上映で振り返った後、同行事実行委員会の上原尚明委員長が「当時の経験から得た教訓を風化させないために、同実行委員会を設け、写真パネル展示などの各種催しを計画した。災害対策の重要性や自然環境に配慮した地域づくりを考える機会に役立て

次いで、須賀龍郎県知事が「当時の経験を教訓に、県民の皆さんが安心して暮らせる災害に強いまちづくりを推進していく。本日の集いが災害に対する認識を新たにする良い機会になれば幸い」と挨拶した。

続いて、㈶河川環境管理財団顧問の竹村公太郎氏が「川と日本文明」、タレントの清水國明氏が「備えあれば、楽しい」と題して、それぞれ講演した。

竹村氏は日本の河川の特長や歴史、各県における河川環境整備の事例など紹介。この中で、今後の課題として「健全な子供を育てるためには、河川環境の整備は重要である」と述べた。また、清水氏は自身のアウトドアライフについての体験談紹介。この中で、川がどういうものか知るために、子供たちには川で遊ぶことを薦めているとし、「そうすることで、危機管理能力を高めることにもつながる」と述べ、「いったん暴れ出したら手がつけられない自然の

たちに自然の素晴らしさを伝えていきたい」と語った。

このほか、3歳から中学3年生までの子供たち80人で構成される「メダカの子ども合唱団」によるミニコンサートも開かれた。

8・6災害10周年イベント

災害のすさまじさ実感

鹿児島市等

鹿児島市（鹿児島地方気象台共催）は3日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで「8・6災害10周年イベント」を開き、小中学生に過去の災害の教訓や気象の変化と災害の発生、雲や竜巻などをつくる実験などを体験させ、平成5年の大災害を子供達に語り継ぎ、防災の大切さを教えた。

同日は、小中学生と保護者150組を対象に災害当時のビデオを放映すると会場から泣き出す声もあり、災害のすさまじさを実感していた。また、被災体験のはなしやクイズ大会、鹿児島地方気象台「お天気教室」、パネル展示、雲や竜巻をつくる実験、降雨体験、はしご車体験試乗などがあり、親子で災害や自然を学んでいた。

県、親子廃棄物教室

リサイクル等を見学

県は5日、廃棄物の減量化・リサイクルへの県民の関心を高めるとともに、排出事業者等のリサイクルに関する積極的な取り組みに理解を深めてもらおうと「親子廃棄物教室」を実施した。遠くは大島郡知名町など、県内各地から親子連れ27組75人が参加して、日置郡松元町の日置地区塵芥処理組合クリーン・リサイクルセンターと鹿児島市のかごしま県民交流センターを視察見学した。

このうち、リサイクルセンターでは、ビデオによる施設概要の説明が行われた後、リサイクルプラザや焼却施設、溶融施設、埋立処分場などを順番に見学し、参加者は真剣な表情で制御装置や焼却炉等に目を配りながら担当官の説明に聴き入っていた。中には、ごみクレーンの巨大さや焼却炉の燃え上がる炎を見て、カメラを撮ったり驚いた表情を見せるなど、めったに見ることのできない施設に関心を示していた。

また、午後からは、かごしま県民交流センターで学習館やアトラクション等を見学、充実した一日を過ごした。

県環境生活部環境整備課産業廃棄物係の増田彰一主査は「子供たちにリサイクルに取り組む姿を実際に見て、大切さを学び考えてほしい」と語った。

担当官の説明を真剣に聴く参加者＝松元町の日置地区塵芥処理組合クリーン・リサイクルセンターで

夏休み親子水道等施設見学会

水の大切さを「実感」

鹿児島市水道局

水道等について理解を深めた見学会
＝鹿児島市の河頭浄水場で

鹿児島市水道局は5日、今年で6回目となる「15年度夏休み親子水道・下水道施設見学会」を開き、同市内の小学生と保護者など19家族47人が参加し、福昌寺水源地や河頭浄水場、南部処理場などを見学して、水道及び下水道への理解と関心を深めた。

西鹿児島駅前にメモ帳やカメラを持参して集合した参加者は、まず福昌寺水源地を見学。一般の人は立ち入ることのできない湧水の湧き出る洞窟内の水源は、照明で照らさないと全く足元が見えない中、無邪気にはしゃいでいた。末吉重徳滝之神浄水場長が水源の種類や施設の歴史などを分かりやすく説明すると、子供らは『供給している範囲は』『湧水の味は』と質問する姿も見られ、最後に末吉場長が「水の大切さを理解し、家や学校では大切に水を使ってください」と言葉を投げかけた。

一行は続いて、河頭浄水場を見学し、上仮屋純憲副場長が浄水場の大切さやしくみを分かりやすく解説。集中管理室や沈砂池、フロック形成池、急速ろ過池などの施設見学では興味深そうにのぞきこんだり写真やビデオに納めたりする姿が見られた。

午後からは、バスの車窓から谷山処理場や下水汚泥堆肥化場、1号用地の南部処理場を見学。最終見学地の南部処理場で施設見学を終わらせた後、感想や意見などアンケートを記入して見学会を終了した。

ゴルフ会員権と株券・即現金買取り
相場80％　融資OK!!
商業手形割引
貸金業登録県知第(7)00077号
(社)鹿児島県貸金業協会員85号
きりハウス㈱
鹿児島市下荒田4-8-16 ☎(099)252-523